

中学校第2学年社会科(地理的分野)学習指導案

日時 平成25年6月3日(月)

指導者 教諭 家入 かよ

1 単元名 第3章 日本の諸地域① 日本の西南部

1 「九州地方～環境問題と環境保全を中心とした考察」

2 単元について

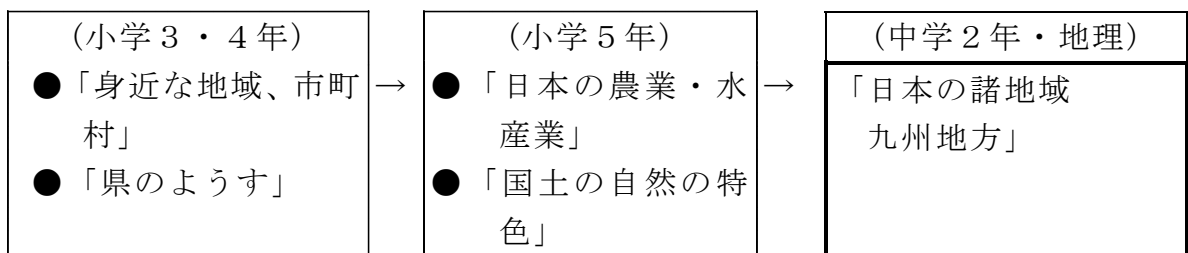
(1) 単元観

本単元は、学習指導要領に示された「(2)日本の様々な地域」の「ウ日本の諸地域」の内容のうち、「(エ)環境問題や環境保全を中核とした考察」を扱う。(エ)では具体的に「地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。」となっている。

九州地方は、火山が多く、その恩恵を受けながらも時には厳しい自然災害にも見舞われる自然環境にある。この環境にありながらも農業や工業などを発展させ、自然との共存を図ってきた。人々の生活や経済活動が自然環境にさまざまな影響をおよぼしており、地域の環境問題や環境保全といった環境と人々の関わり中心として九州地方の地域的特色をとらえさせる。

(2) 系統観

小学校では、3・4年で「身近な地域、市町村」「県のように」で地形や土地利用、産業について学習している。それを踏まえ5年で、食料生産・輸入の実態について学習をしている。食料生産では稲作のほかに野菜・果物・畜産物・水産物の中から一つを選択し学習している。



(3) 生徒の実態

※ 省略

(4) 指導観

○ 本単元の指導にあたっては、次の点に留意したい。

本単元の指導にあたっては、身近で「ふるさと」意識を持っている九州地方であり、熊本県、阿蘇という地理的条件を活かした学習を行っていく

たい。生徒は九州地方のイメージを漠然と「自然が多い」「山がある」「空気がおいしい」というような自然や環境がよいことをあげていた。そこで、九州地方の環境と産業の関わりや環境保全への取組、持続可能な社会を目指した活動についてなど、九州の地域的特色を捉えさせることが重要である。そのために、環境保全には人々の積極的な関わりや営みがあることを確実に捉えさせたい。

阿蘇に生まれ阿蘇を愛してやまない自分を含め生徒たちが、九州地方の環境保全を中核とした地域的特色を理解し、将来の明るい展望が持てるような指導に留意していきたい。

生徒の実態を踏まえ、農業生産の方法や人々の生活については写真等の視覚的な資料等を用いて大事に扱い、地理学習への興味・関心を高めながら基本的な用語の定着を図りたい。

また、地域人材の活用としてのG Tの授業参画、食育を意識した学校給食との連結も図っていきたい。

○ 熊本型授業の展開について

本時では、徹底指導と能動型学習のめりはりのある授業展開になるよう、大まかな九州地方の農業の特色を捉えるためにグラフや資料などの具体的な資料を基にグラフの読み方や考察を思考する仕方の徹底を図りたい。九州地方では、自然環境に応じた農業が行われていることを確認し、学習課題を身近な阿蘇の畜産業に焦点化する。本時のキーワードである「循環型農業」を既存の知識や生活体験を活かしてイメージできるように教具を開発し、循環図を作成することによって、主体的な学習活動ができるように工夫したい。

ICTの活用ポイント

①教師の活用

- ・ ICT機器を効果的に活用し、電子黒板でデジタル教科書の内容や、写真・ビデオを提示することで、学ぶ意欲を喚起し、学力の定着を図るよう工夫する。
- ・ 学習課題や基礎的・基本的事項を確実に把握するために有効な手段として活用する。

3 単元の目標

九州地方の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考えることができる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考 ・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象に ついての知識 ・理解
・環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	・環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・九州地方の地域的特色に関する様々な資料を収集している。 ・収集した資料から、九州地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択した情報を基に、九州地方の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方を基に、地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

5 指導計画及び評価基準（7時間取扱い）

時	学習内容	指導上の留意点	評価基準・評価方法
1	多様な自然環境に恵まれた地域	九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解させる。	関心・意欲・態度 （観察） 九州地方を大観し、諫早湾干拓や世界自然遺産に登録されている屋久島から、環境問題や環境保全に対して興味をもち、とらえようとしている。 知識・理解 （ワークシート） 九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解している。また、日本の南西部に位置するため温暖な気候にあり、台風の被害を受けやすいことなどを理解している。
2	さんご礁の海を守る	さんご礁の白化現象と保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について考えさせる。	思考・判断・表現 （ワークシート） さんご礁の環境破壊の要因を考察し、さんご礁の保全活動やエコツーリズムなどを通して、それらの意義を適切に表現している。
3	火山とともに暮らす	九州地方に火山が集中していることや、火山が人々の暮らしに及ぼす影響について理解させ、桜島の火山活動を例に、地域の人々の対応や利用について考えさせる。	技能 （ワークシート） 「九州地方の火山分布と各地のハザードマップ」から、九州には火山が多く南北に連なって分布していることを読み取っている。

4 【本時】	環境を守る循環型農業	自然環境を生かした循環型農業について理解させ、人間が積極的に関わる環境保全のあり方について考え、表現させる。	<u>思考・判断・表現</u> (観察・発表) 阿蘇の循環型農業のすばらしさを図を用いて説明している。
5	煤煙の街からエコタウンへ	九州地方の工業生産の特色と公害の発生、エコタウン事業について理解させ、北九州市を例に、公害とその克服の取り組みについて考えさせる。	<u>知識・理解</u> (ワークシート) 九州地方の工業生産の特色と、エコタウン事情について理解できる。
6	公害を乗り越えて	環境と産業、公害と地域社会、まちづくりのあり方について、水俣市を例に考えさせる。	<u>関心・意欲・態度</u> (ワークシート) 水俣市で発生した公害病をはじめ、日本各地の公害について関心を持ち、現在の対策や状況について調べようとしている。
7	学習のまとめ	学習のまとめとして九州地方について、環境問題や環境保全の取組に関する特色ある地理的事象に着目し、地域的特色をとらえさせる。	<u>知識・理解</u> (単元テスト・その他) 九州地方について、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

6 本時の学習（4 / 7 時間）

(1) 目標 九州地方では自然環境を生かした畜産業が盛んであり、特に阿蘇の循環型農業がより深く環境保全と関わっていることに気づき、そのすばらしさを説明することができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 5分	1 前時の学習について振り返る。自然とともに暮らしていることについて確認する。 2 九州の畜産業に関連する写真から、どのような農業が行われているのか予想する。	○自然とともに暮らしていることについて確認する。 ○既習の学習から、農業の特色について確認させる。	電子黒板

	3 学習課題を確認する。	○本時の学習に見通しを持たせる。	ワークシート
	九州地方の畜産業について知り、阿蘇の循環型農業を説明しよう。		
展開 40分	<p>4 九州の畜産業について調べる。</p> <p>(1) グラフを読み取り、九州が畜産業がさかんであることを知る。</p> <p>(2) なぜ、鹿児島や宮崎は畜産業がさかんなのかを考える。</p> <p>(3) 発表する。</p> <p>(4) 熊本の畜産業について考える。</p> <p>5 阿蘇で行われている循環型農業を循環図を作成し、説明する。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 班で協力・相談しながら、循環図を作成する。</p> <p>(3) 発表する。</p> <p>(4) 発表を聞いて考えたことを交流・確認する。</p> <div data-bbox="300 1442 715 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【言語活動】(設定の意図) 循環図を完成するために、相談や説明をすることで、循環型農業について理解を深める。 [C: 解釈・説明]</p> </div>	<p>徹底指導 (ポイント)</p> <p>◎ グラフや資料などの具体的な資料を基に九州地方の農業の特色について徹底を図る。</p> <p>○ 九州地方では、自然環境に応じた農業が行われていることを確認し、学習課題を焦点化する。</p> <p>能動型学習 (ポイント)</p> <p>◎ 循環型農業を理解するための手段として、既存の知識や生活体験を活かして循環図を完成させることで必然的に思考が深まり、説明できるようにする。</p> <div data-bbox="767 1290 1291 1547" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆社会的な思考・判断・表現 (観察・発表)</p> <p>B基準 阿蘇の循環型農業のすばらしさを図を用いて説明している。</p> </div> <div data-bbox="767 1559 1291 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A基準 阿蘇の循環型農業のすばらしさを図を用いて、他地域と比較して説明している。</p> </div> <p>(B基準に達していない生徒への手だて)</p> <p>○ 一つ一つにはどんな意味があるか確認し、関連性を考えさせる。 ・ 具体的なヒントを提供し、例示する。</p>	<p>電子黒板</p> <p>資料 ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>ホワイトボード</p>

	<p>6 阿蘇の循環型農業の課題について考える。</p> <p>(1) G Tの話(V T R)を聞く。</p> <p>(2) 阿蘇の畜産業の課題を知り、考える。</p>	<p>○阿蘇の循環型農業の課題を確認する。</p> <p>○阿蘇の循環型農業を継続していくためには草原を守る人間の営みが必要であることを確認する。</p>	<p>G Tの V T R 資料</p>
<p>終末 5 分</p>	<p>7 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 感想を書く。</p> <p>(2) 発表する。</p> <p>(3) 自己評価</p>	<p>○わかったことや感想、自己評価をワークシートに記入させる。</p> <p>○日本の諸地域の各地方で特色ある農業について学習することを確認する。</p>	<p>ワークシート</p>